

地図から学ぶ世界遺産「白神山地」

秋田県公立小学校 教諭

1 はじめに

5年生社会科の態度に関する目標は「国土に対する愛情を育てる」である。これは3・4年の「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」から範囲を広げたものである。そして、その両者の橋渡し役として地図帳の果たす役割が大切になると考える。

2 身近な地域にある世界遺産に学ぶ

世界自然遺産「白神山地」は秋田県の北側、青森県との境に位置する。現在、保護対象の「核心地域」には立ち入りが制限されているが、観光や教育のために周辺部に自然観察スポットが整備されている。秋田県側の「岳岱自然観察教育林」もその一つであり、本校でも毎年のように見学、体験に訪れている。



「楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版」 p.40

現地へ赴き、貴重な動植物の生態系や積み重なった腐葉土の保水能力について、現地で自然観察指導員から話を聞いたり、ブナの巨木に実際に触れたりすることは大切な体験活動である。児童はこれほどすばらしい自然遺産が地域にあることを誇りに感じている。

3 地図帳を活用して

こういった体験をするうえで、地図帳を効果的に活用することが大切である。

まず、事前指導で周辺の様子を確認する。学校から素波里ダムのやや北にある「岳岱」まで、地図上ではわずか数センチであるが、実際に現地に行って高台から見下ろし、はるか遠くに見える市街地までの距離を実感すると、児童は驚きの声をあげる。また地図が土地の高低・土地利用によって色分けされていることも、実際に土地の起伏を見ることによって、その意味が実感できる。



「楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版」 p.72

また事後指導では、自分たちが大切にしたいと考える地元の世界自然遺産「白神山地」の日本国内における位置づけを考えるようにしたい。自分たちが白神山地のすばらしさを知り、誇りに思うのと同じように、国内には世界自然遺産をはじめ、様々な形で貴重な自然を守ろうとする取り組みがあることを調べ、話し合うことは、国土に対する愛情を育てることにつながると考える。

4 おわりに

このように、見学などの事前・事後指導で地図帳を活用して、全国の中での位置を確かめたり、他と比べたりすることが大切である。そして、こういった活動を積み重ねていくことによって、楽しみながら地図の見方を習得できれば、と考えている。